

都市再生整備計画 事後評価シート(案)

鎌倉駅周辺地区






平成27年1月

神奈川県 鎌倉市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	鎌倉市		地区名	鎌倉駅周辺地区		面積	720ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	707百万円	国費率	0.400				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路事業】市道032-000号線(小町通り)、市道001-059号線(鎌倉警察署北側道路)、市道001-065号線(郵便局南側道路)、市道008-000号線(今小路通り) 【高質空間形成施設】市道032-000号線(小町通り)、公共トイレ整備										
		提案事業	【事業活用調査】事業効果分析業務										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路事業】市道027-000号線(市役所通り)、市道212-023(風致保存会前)				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
交付期間の変更	当初変更	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	観光客の満足度	%	74	H20	80	H26	—	78	△	あり なし ●	目標には未達成であったが、あんしん歩行エリア、電線類の地中化、道路の景観舗装及び公共トイレ整備などの事業を行った近年の満足度は上昇していることから、来訪者を温かくもてなす環境の整備に寄与していると考えられる。 ※評価値(見込み値)の算出法については、添付様式2-①参照	平成27年9月
	指標2	安全・安心な歩行者空間に関する満足度	%	13	H20	17	H26	—	14	△	あり なし ●	目標には未達成であったが、安全・安心な歩行者空間に関する満足度は、やや向上している。あんしん歩行エリアの整備を進めてきたが、その整備区間が一部に留まっているため、誰もが安心して歩ける快適な歩行者空間の改善に対する寄与は、限定的であったと考えられる。	平成27年4月
指標3	良好な都市景観形成に関する満足度	%	52	H20	54	H26	—	62	○	あり なし	鶴岡八幡宮への主要動線である小町通り等の電線類の地中化事業や景観舗装事業などにより、来訪者を温かくもてなす快適な空間となったことが、良好な都市景観形成に関する満足度の向上に寄与し、目標値を上回ったと考えられる。	平成27年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値(比較値)		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	観光客数	万人	1,934	H20	/	/	—	2,177	/	平成23年度には一時的に減少しているものの、観光客数は増加傾向にある。道路のカラー舗装により歩行者空間の安全性が向上し、電線類地中化事業や景観舗装事業により観光客が集まる小町通りの景観が改善された。また、公共トイレの整備により、観光客がより安心して観光スポットを巡れるようになった。これらの事業は、観光客の来訪意欲の向上に寄与していると考えられる。	平成27年9月	
	その他の数値指標2	交通事故発生件数	件数	305	H20	/	/	—	203	/	市民の安全・安心な歩行者空間に関する満足度は目標値に達しなかったが、鎌倉地域の交通事故発生件数は減少している。あんしん歩行エリア整備の事業効果が事故の発生件数の減少に寄与していると考えられる。	平成27年5月	
その他の数値指標3											—		
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 電線の地中化によって、見通しが良くなり、山の稜線が望めるなど良好な景観が形成された。 カラー舗装によって、歩行者、ドライバーにとって歩道の区分別がわかりやすくなった。 遮熱性をもった舗装としたことで、歩きやすくなるとともにヒートアイランド抑制につながった。 トイレのユニバーサルデザイン化で、障害のある方や外国人観光客も安心して観光スポットを巡れるようになった。 												
5)実施過程の評価	実施内容												
	実施状況												
	今後の対応方針等												
	モニタリング	【実施頻度】年一回程度 【実施時期】平成17年以降 【実施結果】市民や観光客の意識調査結果により、事業の効果等をモニタリングしてきた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた						● 今後も引き続き市民・観光客の意識調査を実施し、市民・観光客のニーズの把握に努める。			
住民参加プロセス			都市再生整備計画に記載し、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた						● 事後評価制度を活用し、PDCAサイクルによるまちづくりを進める。市民参画でのまちづくりを継続して推進する。				

様式2-2 地区の概要

鎌倉駅周辺地区(神奈川県鎌倉市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
豊かな歴史的遺産と身近な山並み、青い海などの良好な自然環境を活かし、市民・来訪者が快適に共存できる古都鎌倉の顔づくりを市民との協働による再創造の更なる推進を図る。 目標①: 駅周辺において、観光客をはじめとした来訪者を温かくもてなす快適な環境整備を図る 目標②: 駅から主要観光スポット・公共施設までの改善を実施し、市民及び来訪者が安全で安心して歩ける歩行者空間の更なる改善を図る		観光客の満足度	単位: %	74	H20	80	H26	78	H26
		安全・安心な歩行者空間に関する満足度	単位: %	13	H20	17	H26	14	H26
		良好な都市景観形成に関する満足度	単位: %	52	H20	54	H26	62	H26
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">  <p>■ 基幹事業: 高質空間形成施設 【公共トイレ整備事業】 1箇所</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;">  <p>鎌倉市役所</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>■ 基幹事業: 道路 【電線類の地中化事業】 市道032-000号(小町通り)他</p> <p>■ 基幹事業: 高質空間形成施設 【景観舗装等】 市道032-000号</p> <p>■ 基幹事業: 道路 【あんしん歩行エリアの整備】 市道001-059号(鎌倉警察署北側道路)</p> <p>■ 基幹事業: 道路 【あんしん歩行エリアの整備】 市道001-065号(郵便局南側道路)</p> <p>■ 提案事業: 地域創造支援事業 【公衆トイレユニバーサルデザイン化事業】 4箇所</p> </div> <div style="width: 20%;">  <p>■ 基幹事業: 道路 【電線類の地中化事業】 市道032-000号(小町通り)</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>■ 基幹事業: 道路 【あんしん歩行エリアの整備】 市道008-000号(今小路通り)</p> </div> <div style="margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>■ 基幹事業: 道路 【あんしん歩行エリアの整備】 市道008-000号(今小路通り)</p> <p>■ 提案事業: 地域創造支援事業 【公衆トイレユニバーサルデザイン化事業】 4箇所</p> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p>■ 提案事業: 地域創造支援事業 【公衆トイレユニバーサルデザイン化事業】 荏柄天神社トイレ</p> </div>									
<p>まちの課題の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あんしん歩行エリアの整備については一部達成されたが、引き続き未整備部分の事業実施が必要である。 ・公衆トイレの整備およびユニバーサルデザイン化により、障害者の方や外国人観光客にとって使いやすいトイレが整備され、快適な環境整備を進めることが出来た。引き続き、ユニバーサルデザインにする公衆トイレの整備が必要である。 ・電線類の地中化及び景観舗装の整備により、街並みとの調和と開放感のある見晴らしの良い景観となった。 ・電線類の地中化により、既存の電柱及び電線等がなくなったため、道路上へ出される立看板等違反屋外広告物が目立つようになった。 ・電線類の地中化により、地震時の電柱倒壊、電線の垂れ下がり等の懸念がなくなり、都市防災の予防も期待できる。 									
<p>今後のまちづくりの方策(改善策を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレの整備を引き続き計画的に実施していく。 ・あんしん歩行エリアの整備については、一部区間での整備となったため、引き続き未整備部分の事業を実施していく。 ・屋外広告物については、交通管理者、道路管理者のほか、除却協力員や関係業界等と連携し、違反広告物の除却、移動、撤去指導を継続していく。 									

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道032-000号線(小町通り)他	331.0	L=530m	487.0	L=530m	工事協定の変更交渉などに伴う工事進捗の遅れのため、事業期間の延長及び工事費の増額を行った。	実施する事業の延長は概ね変わらないため、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響なし。	●	
	市道027-000号線(市役所通り)	2.0	-			安心歩行エリア整備計画を見直したことに伴い対象事業から削除した。	事業内容、事業費ともに軽微であり、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響なし。		
	市道001-059号線(鎌倉警察署北側道路)	4.0	L=140m	4.0	L=140m	-	-	●	
	市道212-023号線(風致保存会前)	1.0	-			安心歩行エリア整備計画を見直したことに伴い対象事業から削除した。	事業内容、事業費ともに軽微であり、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響なし。		
	市道001-065号線(郵便局南側道路)	4.0	L=160m	4.0	L=160m	-	-	●	
	市道008-000号線(今小路通り)	36.0	L=830m	36.0	L=830m	-	-	●	
高質空間形成施設	-	221.0	-	108.0	-	施工箇所の精査に伴い、事業費を縮小した。また、関連する工事の遅れに伴い、事業期間の延長を行った。	施工箇所を精査し、一部を提案事業(地域創造支援事業)へ変更するとともに、事業費の縮減を行ったが、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響なし。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	公衆トイレユニバーサルデザイン化事業	-	-	93.0	4箇所	高質空間形成施設から地域創造支援 事業に変更した。	基幹事業から提案事業への変更であり、まちづくり目標、目標を定量化する 指標、数値目標等への影響なし。		●
事業活用調査	事業効果分析業務	3.0	-	3.0	-	-	-		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
道路		市道027-000号線(市役所通り)	166.0	166.0	H22～H26	H22～H26	事業完了	
鎌倉由比ガ浜商店街活性化事業		由比ガ浜通り	0	0	H22～H26	H22～H26	事業実施中	
鎌倉アダプト・プログラム		若宮大路	0	0	H22～H26	H22～H26	事業実施中	
鎌倉シルパーボランティアガイド事業		鎌倉駅周辺	0	0	H22～H26	H22～H26	事業実施中	

添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標 1	観光客の満足度	%	-	-	74	H20	80	H26	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		78	事後評価		
指標 2	安全・安心な歩行者空間に関する満足度	%	-	-	13	H20	17	H26	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		14	事後評価		
指標 3	良好な都市景観形成に関する満足度	%	-	-	52	H20	54	H26	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		62	事後評価		
指標 4			-	-					モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定			事後評価		
指標 5			-	-					モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標 1	△：観光客の満足度は、目標に対し未達成であった。しかし、近年は満足度が上昇しており一定の効果は上がっている。	
指標 2	△：あんしん歩行エリアの整備を進めてきたが、一部の区間であったため効果は限定的であったと考えられる。	
指標 3	○：鶴岡八幡宮への主要動線である小町通り等の電線類の地中化事業や景観舗装事業により、良好な都市景観形成に関する満足度向上に寄与した。	
指標 4		
指標 5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式 2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (比較値) (イ)		数値 (ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標 1	観光客数	万人	-	-	1,934	H20	モニタリング	-	-	2,177	指標1「観光客の満足度」を補完する指標として、「観光客数」が観光客をはじめとした来訪者を温かくもてなす快適な環境整備を示す指標として、ふさわしいと考える。	指標1を補完し、来訪者をもてなす快適な環境整備を説明する。
							事後評価	確定	●			
その他の数値指標 2	交通事故発生件数	件数	-	-	305	H20	モニタリング	-	-	203	鎌倉市でも特に多くの来訪者が訪れる鎌倉地域では、狭隘な道路環境により交通渋滞や歩行者の安全確保に支障をきたす状況となっている。鎌倉地域内の交通事故発生件数の推移は、歩行空間の改善を示す指標としてふさわしいと考えられる。	指標2を補完し、歩行空間の改善を説明する。
							事後評価	確定	●			
その他の数値指標 3			-	-			モニタリング	-	-			
							事後評価	確定	●			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式 2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・電線の地中化によって、見通しが良くなり、山の稜線が望めるなど良好な景観が形成された。
- ・カラー舗装によって、歩行者、ドライバーにとって歩車道の区分がわかりやすくなった。
- ・遮熱性をもった舗装としたことで、歩きやすくなるとともにヒートアイランド抑制につながった。
- ・トイレのユニバーサルデザイン化で、障害のある方や外国人観光客も安心して観光スポットを巡れるようになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
円滑な事業の執行のため、交付期間中はモニタリングを行う予定である。	予定どおり実施した	● 【実施頻度】年一回程度 【実施時期】平成17年以降 【実施結果】市民や観光客の意識調査結果により、事業の効果等をモニタリングしてきた。	今後も引き続き市民・観光客の意識調査を実施し、市民・観光客のニーズの把握に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
「古都中心市街地まちづくり協議会」を設置し、市民参画でまちづくりを進めてきた。都市再生整備計画の期間中も継続して実施する。	予定どおり実施した	●		事後評価制度を活用し、PDCAサイクルによるまちづくりを進める。 市民参画でのまちづくりを継続して推進する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由:①社会資本整備総合交付金の事後評価制度が定着し、設置意義が薄れたため。②古都中心市街地まちづくり構想で作られた事業が進んでいないため。)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	経営企画課、観光商工課、道路課	平成26年10月～	経営企画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		その他指標1		その他指標2			
指標名		良好な都市景観形成に関する満足度		観光客数		交通事故発生件数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(市道032-000号線(小町通り)他)	◎	鶴岡八幡宮への主要動線である小町通り等の電線類の地中化事業や景観舗装事業などにより、来訪者を温かくもてなす快適な空間となったことが、良好な都市景観形成に関する満足度の向上に寄与し、目標値を上回ったと考えられる。	○	平成23年度には一時的に減少しているものの、観光客数は増加傾向にある。道路のカラー舗装により歩行者空間の安全性が向上し、電線類地中化事業や景観舗装事業により観光客が集まる小町通りの景観が改善された。また、公衆トイレの整備により、観光客がより安心して観光スポットを巡れるようになった。これらの事業は、観光客の来訪意欲の向上に寄与していると考えられる。	◎	市民の安全・安心な歩行者空間に関する満足度は目標値に達しなかったが、鎌倉地域の交通事故発生件数は減少している。あんしん歩行エリア整備の事業効果が事故の発生件数の減少に寄与していると考えられる。		
	道路事業(市道001-059号線(鎌倉警察署北側道路))	◎		○		◎			
	道路事業(市道001-065号線(郵便局南側道路))	◎		○		◎			
	道路事業(市道008-000号線(今小路通り))	◎		○		◎			
	高質空間形成施設事業(-)	◎		○		-			
提案事業	地域創造支援事業(公衆トイレユニバーサルデザイン化事業)	-		○		-		-	
	地域創造支援事業(事業効果分析業務)	-		-		-		-	
関連事業	道路	◎		○		◎			
	鎌倉由比ガ浜商店街活性化事業	-		○		-			
	鎌倉アダプト・プログラム	-		○		-			
	鎌倉シルバーボランティアガイド事業	-	○	-					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も引き続き未整備箇所について、より良好な景観形成のための整備検討を進めていきたい。	今後も国内外を問わず様々な来訪者を見据えて施設整備を進め、より安全で、快適なまち歩きができるような施設整備及び検討を進めていきたい。	今後も引き続き未整備箇所について歩行空間改善に係る整備を進めていきたい。
-------	---	--	--------------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標2								
指標名		観光客の満足度			安全・安心な歩行者空間に関する満足度								
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路事業(市道032-000号線(小町通り)他)	△	目標には未達成であったが、あんしん歩行エリア、電線類の地中化、道路の景観舗装及び公共トイレ整備などの事業を行った近年の満足度は上昇していることから、来訪者を温かくもてなす環境の整備に寄与していると考えられる。	Ⅲ	△	目標には未達成であったが、安全・安心な歩行者空間に関する満足度は、やや向上している。あんしん歩行エリアの整備を進めてきたが、その整備区間が一部に留まっているため、誰もが安心して歩ける快適な歩行者空間の改善に対する寄与は、限定的であったと考えられる。	Ⅲ						
	道路事業(市道001-059号線(鎌倉警察署北側道路))	△			△								
	道路事業(市道001-065号線(郵便局南側道路))	△			△								
	道路事業(市道008-000号線(今小路通り))	△			△								
	高質空間形成施設事業(-)	△			-								
提案事業	地域創造支援事業(公衆トイレユニバーサルデザイン化事業)	△						-					
	地域創造支援事業(事業効果分析業務)	-						-					
関連事業	道路	△						△					
	鎌倉由比ガ浜商店街活性化事業	△						-					
	鎌倉アダプト・プログラム	△						-					
	鎌倉シルバーボランティアガイド事業	△		-									

※目標未達成への影響度

××:事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×:事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△:数値目標が達成できなかった中でも、

ある程度の効果をあげたと思われる。

一:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>快適なまち歩きができるよう、継続的な事業の推進を図るとともに、立看板対策などまち並み景観対策も進めていく。</p>	<p>今後も引き続き未整備箇所について歩行空間改善に係る整備を進めていく。</p>	
------------------	--	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	経営企画課、観光商工課、道路課	平成26年10月～	経営企画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
歩行者が安全で安心して歩ける道路については、財政状況の悪化等により一部区間のみの整備となったため、引き続き未整備部分の事業実施が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・電線類の地中化により、上空の電線が無くなり、災害時における電線の垂れ下がりが無く、歩行者が安全で安心して歩ける道路となった。また、都市防災の予防も期待できる。 ・電線類の地中化により、開放感のある見晴らしの良い景観となった。 ・アスファルト舗装の表面に景観舗装を施すことにより、街並みとの調和を図った。 ・路面の表面温度を抑える遮熱性をもった景観舗装を実施したことにより、ヒートアイランド現象の抑制を図った。 ・カラー舗装による歩車分離が明示化され、歩行環境が向上した。 ・障害のある方や外国人観光客にとっても使いやすい、公衆トイレのユニバーサルデザイン化が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備区間が一部に留まったため、引き続き未整備部分の事業実施が必要である。 ・観光客が集まる地域における公衆トイレの整備が望まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電線類の地中化により、開放感のある見通しの良い景観となったが、一方で道路上へ出される立看板等違反屋外広告物が目立つようになった。
古都鎌倉の顔づくりとなる鎌倉駅西口周辺地区については、今後も関係者と協議を継続し、事業を実施する必要がある。		<ul style="list-style-type: none"> ・古都鎌倉の顔づくりとなる鎌倉駅西口周辺地区の事業は、継続中であり、今後も関係者との協議を実施し、事業を推進していく必要がある。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歩行者空間の安全性の向上	交通管理者と連携した歩行環境の安全性の向上を図る。	・交通対策事業 ・歩行者、ドライバーのマナーアップ
	良好な都市景観形成の誘導	市民協働等を活用した、景観的な視点からのまちづくりを進める。	・都市景観形成事業

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	歩行者空間の改善	未整備部分の歩行者空間の改善を推進し、安全・安心な歩行空間の創出を図る。	・あんぜん歩行エリア整備事業
	快適な街並みの創出	道路上の景観を阻害するとともに、歩行の妨げとなる無許可の立看板の撤去を行い、快適なまち並みの創出を図る。	・違反屋外広告物除却キャンペーン
	来訪者をもてなす快適な環境整備	公衆トイレや観光案内板の整備に取り組み、観光客をはじめとする来訪者の快適な環境改善を図る。	・公衆トイレユニバーサルデザイン化事業 ・観光施設整備事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	観光客の満足度	%	74	H20	80	H26	確定	78	△	あり	●	→	平成27年9月	平成26年の鎌倉市の観光事情の結果を用い、確定値とする。	-
							見込み ●			なし					
指標2	安全・安心な歩行者空間に関する満足度	%	13	H20	17	H26	確定	14	△	あり	●	→	平成27年4月	平成26年度の市民意識調査の結果を用い、確定値とする。	-
							見込み ●			なし					
指標3	良好な都市景観形成に関する満足度	%	52	H20	54	H26	確定	62	○	あり	●	→	平成27年4月	平成26年度の市民意識調査の結果を用い、確定値とする。	-
							見込み ●			なし					
その他の数値指標1	観光客数	万人	1934	H20	/		確定	2,177	/	/	●	→	平成27年9月	平成26年の鎌倉市の観光事情の結果を用い、確定値とする。	-
見込み	●														
その他の数値指標2	交通事故発生件数	件数	305	H20	/		確定	203	/	/	●	→	平成27年5月	平成26年度の交通事故発生状況の結果を用い、確定値とする。	-
見込み	●														
その他の数値指標3		0	0	0	0	/		確定	0	/	/	●	→	-	-
見込み															

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・指標は、事業効果の有無が判断しやすくなる ようにすることが有用である。
	うまく いかなかった点	事業対象エリアの住民によるアンケートであったが、実施事業が一部に留まったため、アンケート 対象エリア内における歩行環境の大幅な改善につながらず、指標の数値が目標に達しなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価の実施により、事業課の事業成果を確認・検証する意識が高まった。	・まちづくりの課題や事業の効果・目標を明示した 上で、事業計画を作成する必要がある。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成26年11月4日～12月3日	平成26年11月4日～12月3日	担当課への窓口提出、 電話、FAX、電子メール	経営企画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に担当部署及び市ホームページで公表している旨を掲載	広報かまくら(平成26年11月1日号)	平成26年11月4日～12月3日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当部署での閲覧・配付	平成26年11月4日～12月3日	平成26年11月4日～12月3日		

住民の意見 (2通)	<p>鎌倉市が観光都市を目指しているなら、観光客の満足度を満たす様々な努力が必要であることは勿論だが、一方で住民の居心地の良さも念頭に置かなければならない。</p> <p>その意味から、これまで一部で実施された歩道のカラー化や電線の地中化などは評価される。いずれも今後駅周辺や観光ルートの道路でさらに推し進められるように願いたい。</p> <p>殊に歩道については、従来狭くて凹凸の激しいところが多く、歩行者にも高齢者の自転車にも危険極まりなく、早急に段差をなくしたカラー化が望まれる。</p> <p>道路の問題としては、駅周辺の車も通れる道路を観光客が歩行者天国とでも勘違いしているのか、道の真ん中を大勢で歩行して車の通行を妨げているのが通常であり、このようなところにはカラー歩道を設置するとか、端をあるくよう注意を促す表示をすべきではないか。</p> <p>また、道路事情により交差点と離れた信号停止線のあるような箇所の停止線のベンキが剥げて、他所から来た車が停止場所で停車しないために、交通の混乱を招くことがしばしばであり、消えた交通標識は早く対処すべきではないか。(警察の怠慢かもしれない)</p> <p>駅西口周辺の整備計画が現在どうなっているか不明だが、ミニバスの停留所を何とか新設することはできないか。市役所前までは距離があり、お年寄りには負担であろう。せっかく駅までバスが乗り入れているのに乗車できないのはなぜか。市民の公益を優先していただきたいと思う。</p>
	※原文のまま掲載し

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	志村 直愛 氏 東北芸術工科大学デザイン工学部教授	第1回：平成26年10月20日 第2回：平成27年1月23日	経営企画課	鎌倉市社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	市民委員3名 ・商店会及び自治町内会の代表者2名 ・観光団体職1名				
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書				
	成果の評価				
	実施過程の評価				
	効果発現要因の整理				
	事後評価原案の公表の妥当性				
	その他				
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認				
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成				
	フォローアップ				
	その他				
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認				
その他					

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。